



Title	2016年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	塚田, 章
Citation	デザイン理論. 2017, 70, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/65043
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2016年度 意匠学会賞選考結果報告

2016年度学会賞選考委員会

委員長 塚 田 章

受賞業績

藪 亨氏

『デザイン史 その歴史、理論、批評』

受賞理由

受賞業績は2016年8月に作品社から刊行された著書『デザイン史 その歴史、理論、批評』で、著者は藪亨氏である。谷本尚子会員は「本書は、著者が長年にわたって精緻にデザイン史研究を続けた成果であり、デザイン史研究そのものを反省的に論じている点で、革新的であると考え。さらに本書に含まれる考察には、『デザイン理論』に投稿された論文も多数含まれており、この研究成果は、意匠学会の歴史と共に歩んできたデザイン史研究の重要な軌跡とも言える。」と評され、永井隆則会員は「同氏は、1974年、京都工芸繊維大学に修士論文を提出し、1977年、大阪芸術大学に赴任してデザイン史を講じ始めて以来、長年にわたって、デザイン史研究に研究生生活を捧げてきた。特に、ユーゲントシュティール、ドイツ工作連盟、バウハウスといったドイツ近代デザインとラファエル前派とウィリアム・モリスを主たる専門として既に数多くの論文と著作を発表してきた。本書は、1996年から2013年までの約10年間の藪氏のデザイン史に関する論文を収録した論文集である。しかし、単なる論文の寄せ集めではない。副題の「デザイン史 その歴史、理論、批評」が示すとおり、本書は、「デザイン史」という新しい学問についての方法論や社会的意味に関する自覚的な反省の書であり、この点で、一冊の書物としての統一性と主張をはっきりと示している。特にデザイン史を現代デザインの潮流や現代社会の変貌との関係の中で位置付けようとする藪氏の視点は独特であり、デザイン史を死学でなく生きた学問として捉え直していく姿勢は高く評価すべきである。」と評している。

選考経緯

2016年度学会賞の推薦締め切りは2016年11月末であったが2件の推薦状が届いた。一件は谷本尚子会員から、もう一件は永井隆則会員からのものである。共に藪亨会員の著作『デザイン史 その歴史、理論、批評』を推薦するものであった。谷本尚子会員の「意匠学会の歴史と

共に歩んできたデザイン史研究の重要な軌跡」という推薦、永井隆則会員の「藪氏は、批評、エッセイ、啓蒙ではなく、学としてのデザイン史を日本で実践し確立した希有な存在であり、その活動を通じて、デザインの意義を社会に発信した功績は多大である。」という推薦を受け、2016年度学会賞選考委員会は意匠学会賞の顕彰に相応しい著作であると判断した。この学会賞選考委員会からの提案は2017年4月の第1回役員会に報告され承認を得た。